

教育センターだより

9月



423号 令和7年9月 2日

砺波市教育センター HPはこちら

〒939-1398 砺波市栄町7番3号

TEL 33-1559 FAX 33-1157

E-mail tonami-ec@tonami-city.ed.jp



安心できる居場所を子供たちに

酷暑の中、教育センター研修会に多くの先生方にご参加いただき、ありがとうございます。先生方が主体的に学び、今後の実践に活かそうとする姿が印象的でした。

8月8日の資質向上研修会では、講師・喜田裕子先生よりこれからの不登校対策として、すべての子供たちが登校できるようにするには「安心と絆を感じられる環境づくり」が大切とのお話がありました。すばやく子供の変化に気づき、「どうしたの？」と声をかける——そんな教員の感性が求められています。

まずは、私たち教員自身がゆとりをもち、子供の様子を気にかけること。その一步が子供たちの「安心できる居場所」につながるのではないのでしょうか。

研修のあしあと

期日・研修会名・演題・講師	参加者より
7月25日（金） 授業力向上研修会 「個別最適で協働的な学びを実現する 複線型授業」 文部科学省学校 DX 戦略アドバイザー 國香 真紀子 先生	 ・これまでも複線型の授業を行っているが、子供が自分の学びに責任をもつことが大事だと改めて思った。 ・弾力的な単元構想を考え続けていくことが大切だと感じた。
7月28日（月） 「保認小中 若手教員研修会」	 ・園の活動や様子を発信して、理解してもらうことの大切さを感じた。 ・対話を通してそれぞれの思いや取組を知り、子供たちに一貫した教育や支援がもっとできると感じた。
7月29日（火） 特別支援教育研修会 「通常学級にいる個別の支援を必要とする児童生徒への対応」 東京農工大学大学院工学研究院 客員教授 河野 俊寛 先生	 ・支援を必要とする子供たちに対応するにはそれぞれの特性を理解し対応する必要性を改めて感じた。 ・自分が子供にとっての環境の一部だという自覚をもち、合理的な環境調整を行っていくとともに子供自身が「自分で言える・行動できる」ようになるための手助けをしたい。

7月30日（水） 「研究主任研修会」		・他校の事例を聞き、学び方の共有の方法や「見方・考え方」の具体化について考えることができた。 ・学び方や「見方・考え方」を具体的な形で共有し、学校全体の力を上げていきたい。
7月31日（木） 生徒指導講演会 「不適応行動の理解と その支援」 富山県心の相談室 カウンセリングオフィス こころのおと 代表 深澤 大地 先生		・不適応行動や問題行動を修正しようとしてしまうが、子供のSOSであるという視点をもつことが大切であるということが印象的だった。 ・悩みをもつ生徒に対して助言し過ぎず自分のことを客観的に語れるように接したい。
8月 8日（金） 資質向上研修会 「あらためて不登校について考える」 富山大学人文学部 教授 喜田 裕子 先生		・不登校への支援は一次支援が重要なことを再認識した。 ・子供目線を忘れずに、子供の行動の背景にある思いを読み取る姿勢をもっていきたい。敏感な子についての意識を高め自分の行動を見直していきたい。
8月18日（月） 体育実技研修会 「すべての子供が主体的に 取り組める表現リズム遊び 表現運動」 千葉大学 准教授 七澤 朱音 先生		・表現リズム遊びは、運動能力に関係なくみんなが主役になれる遊びだと改めて実感した。 ・動きを考えることが苦手な子供もいるので、まずは、教師が楽しんで動きを見せたり、身体表現をしたりしていきたい。
8月19日（火） 「幼児教育・小学校教育 接続推進研修会」		・スタートカリキュラムの見直しの必要性を感じた。今年度の反省点を来年度に繋げたい。 ・小さな積み重ねが、職員間の意識の段差解消につながっている。より具体化した視点をもって意見を交わし、実際の現場に生きた接続を考えていきたい。
8月20日（水） 「ミドル リーダー研修会」		・教室や職員室での対話を大切に、視野を広げ、全体を見て考えていきたい。 ・全校の子供たちを全員で見ているという意識を強くし、子供の変化や様子で気付いたことはすぐに共有していきたい。
8月22日（金） 学力向上研修会 「自立した学習者の育成に 向けた授業づくり」 東北学院大学 教授 佐藤 正寿 先生		・発問や教材提示を工夫することで、子供が深く思考できるゆさぶりをしかけていきたい。 ・教師が無意識のうちに教え続けていることを意識する必要がある。形式的な子供主体の授業にならないようにしたい。